

# TECHNICAL DATA

仕上げの種類	吸水調整材・モルタル接着増強用 ポリマーディスパージョン
製品名	モルパット45 (MORPAT45)

第4版 作成日： 2017年4月17日



**菊水化学工業株式会社**

# 標準施工仕様書

- 種類 : 吸水調整材・モルタル接着増強用  
ポリマーディスパージョン
- 製品名 : モルパット45
- 素地 : コンクリート・セメントモルタル 等
- 適応範囲 : 建築物壁面・床面等のモルタル接着増強剤及び吸水調整材
- 工程 :  
新規下地

## 《A：塗布工法（吸水調整）》

工程	材料・調合	施工用具	間隔時間 (20℃)	塗回数	用途	使用量
塗布工法 (吸水調整)	モルパット45 主材：18kg 清水：72L	ウールローラー 水性刷毛 エアレス等	2以上	1	壁	450～900m <sup>2</sup> /18kg 缶 0.10～0.20kg/m <sup>2</sup> (5倍液)
					床	450～600m <sup>2</sup> /18kg 缶 0.15～0.20kg/m <sup>2</sup> (5倍液)
				2	A L C	230～300m <sup>2</sup> /18kg 缶 0.30～0.40kg/m <sup>2</sup> (5倍液)

## 《B：モルタル混和工法》

工程	材料・調合	施工用具 条件	使用量
モルタル 混和	普通ポルトランドセメント : 25 kg 左官用砂 : 20～75 kg メチルセルローズ : 適宜 モルパット45 : 2.5 kg～5.5 kg 清水 : 適宜	コテ	適宜

- 工法 :

### (1) 素地調整

- ・コンクリート面の突起物、レイタンス及び白華は、グラインダーがけ又は皮スキ等で除去して下さい
- ・汚れ及び付着物は、ワイヤーブラシ・研磨紙・布等で除去し、必要に応じて水洗いを行って下さい。

- ・下地のひび割れ、破損、浮きなどはBR工法等で適切な処理をして下さい。
- ・下地面に残留する金属（番線・くぎ等）は除去して下さい。

(2) 材料の取扱い（混ぜ合わせ）

《A：塗布工法（吸水調整）》

- ・モルパット45を1kgに対し清水4Lを加え均一に混ぜ合わせ使用します。

《B：モルタル混和工法》

- ・材料の調合は上記範囲内で行ってください

(3) 施工

《A：塗布工法（吸水調整）》

- ・ローラー塗り・刷毛塗り又はスプレーにて塗布して下さい。
- ・モルタルの塗り付けは、モルパット45(MORPAT45)の塗布後、長期間の放置は塵埃等の付着によって付着力が低下しますので、なるべく早い時期にモルタル塗りを行って下さい。

《B：モルタル混和工法》

- ・モルパット45混入モルタルを補修箇所に充填し、表面を平滑に仕上げてください。
- ・1回の塗り厚は、7mm以下にしてください。それ以上厚塗りする場合は、硬化状態を確認しながら数回に分けてくし目を入れ、塗り重ねてください。
- ・塗り付け後は、24時間以上養生をしてください。

● 荷 姿

吸水調整材：モルパット45

NET：18 kg/缶

モルタル混和剤

# 成分表

- 吸水調整材：モルパット45  
モルタル混和剤

内 容	重量 (%)
樹脂 (固形分)	45~46
水	54~55
計	100.0

# 性能試験成績書

種類	吸水調整材・モルタル接着増強用ポリマーディスパージョン	
商品名	モルパット45 (MORPAT45)	
供試材料	モルパット45 (MORPAT45)	
試験方法	JIS A 6203-2000に準拠	
項目	規 定	結 果
曲げ強さ	8.0 N/mm <sup>2</sup> 以上	12.9 N/mm <sup>2</sup>
圧縮強さ	24.0 N/mm <sup>2</sup> 以上	34.6 N/mm <sup>2</sup>
接着強さ	1.0 N/mm <sup>2</sup> 以上	2.3 N/mm <sup>2</sup>
吸水率	10.0 %以下	4.0%
透水量	15g 以下	3.0 g
長さ変化率	0~0.150 %	0.05%
<p>〈 配 合 〉</p> <p>普通ポルトランドセメント : 450</p> <p>標準砂 : 1350</p> <p>モルパット : 100</p> <p>清水 : 105</p> <p style="text-align: center;">—以下余白—</p>		

\*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

# 性能試験成績書

種類	環境対応型モルタル接着増強用ポリマーディスパージョン	
商品名	モルパット45	
供試材料	モルパット45 (塗布打ち継ぎ工法: 吸水調整)	
試験方法	日本建築仕上げ学会 M-101規格に準拠	
項目	規定	結果
外観	粗粒子、異物、凝固物等がないこと	合格
全固形分	表示値±1.0%以内であること	合格
吸水性	30分間で1g以下であること	0.96g
接着強度試験	標準状態	異常なし 2.19 N/mm <sup>2</sup> (界面破断率:0%)
	熱冷繰返し抵抗性	著しいひび割れおよび剥離がなく、接着強度が1.0N/mm <sup>2</sup> 以上で、界面破断率が50%以下であること。 異常なし 1.61 N/mm <sup>2</sup> (界面破断率:20%)
	凍結融解抵抗性	異常なし 1.83 N/mm <sup>2</sup> (界面破断率:35%)
	熱アルカリ溶液抵抗性	異常なし 1.51 N/mm <sup>2</sup> (界面破断率:40%)
-以下余白-		

\*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

# 施工にあたっての要点

## ●施工

- 【1】 使用量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。
- 【2】 所定の使用量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の使用量を守って施工して下さい。

## ●材料

- 【1】 製品は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 製品は、湿気に注意し、水係を避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

## ●工法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。
- 【2】 製品はミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【3】 練り水及び希釈水は必ず清水を使用して下さい。
- 【4】 練り混ぜ後、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、練り混ぜ後はなるべく早く使い切ってください。
- 【5】 可使時間の過ぎた材料を、練り直して再度使用しないで下さい。
- 【6】 練り足し、水を加えての練り戻しはしないで下さい。
- 【7】 表面に白華が発生した場合は水洗い等で除去してから次工程の作業を行ってください。

## ●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。
- 【4】 養生を剥がす際は、十分に注意して行って下さい。
- 【5】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。
- 【6】 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜて下さい。
- 【7】 小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。
- 【4】 施工器具・条件は代表的なものです。  
施工器具、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【5】 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- 【6】 改修・改装工事の場合は、弊社最寄りの営業所にご相談ください。
- 【7】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS（安全データシート、旧 MSDS）を参照して下さい。

\*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。